

あくまで世小浦を好みゆきのひされ縫をまんざるのふ
あくとつうかて毛郷ハ疾を被ふの功多くば毛郷毛居
すすあくされハ業を授ふまと弘くばとてえ文三年す家
猿をねて居を毛郷す移くも吉國才を傷くすれ附子年三
十七歳自云られ我を興すとあくべ今後をあくせ
たまハ奉姫を汚すとぞバヤシとて氏を吉益と改む
曾祖政慶紀伊子居す天正年間農を周參をひきあて紀伊と改
豆の財政慶賀行くくぬ内子折キ吉益半笑あう家子毛居
あう半笑あも畠山の猿あり世々吉益産林をつづてせよ名
あう吉益源とテア高洞二石すより吉益氏を冒すあ
この財医業務いあくあすかまみ折モナルバ門弟進むこと
あくたまく賊子あひて家をまゝ貧くルれども土保人を
造り鬻きく生計の助けとてそのころ莫逆の友あくら
も

村尾某とひよ人仕友と勧むす東羽書と賜りおひそ
云うじめ子ハ我初色ありとせりひづく一小今ハ口生を知
るゆのすあくべ我實くう老親あくとも志と降く
そ祖毛と摩せうとと為んや實ハナの事やく窮きハ
命めうたとひ術ハ行されずと天の形をとばよ表ト
そとうく仕へを未めずるれハ實用も甚く治計
の術あれハ高戒め食して五條あくサ彦名廟子諸ぐ
行念一くは為則不育化をうて過ちて古驛名ふ志
くく一世の盤譽をとくせう推てことをとめよ今已す固
意をす迎う命且タすあくどう驛名の誰かとて天の罰す
るす實あくしむれをさうば神明の照禮を無れゆひて我

知らぬやうに歎かんと考へてあつたと、先生の嘆息を聞き、嘆息するの聲氣と、よろこびて金子をあつて東洞が興る云ふ事あれど、鎌倉ありこれと墨して先生の實を取けまわらぬが、とくにあれあくまで謹みとおゆうの日から金子とくにあれあくまで謹みとおゆうの日からとのひびれと、嘆息氣色をして云ひれ候。そ嘆きの意あんやあく先生の為めあくわざ天下萬民の性命を救さんとせば、がむとこゝへける東洞の言を感じ候。やうに御免られあく家賃やうくふ足りとあつたりあく財一人の病者を治療せらう山脚東洋の度すある

て東洞の薦剖を受てたすあがきの主方の納書を磨いたうづる毛筆を服用しゆくの病者曰あくべて嘆氣せうくて東洞の恩第一極の人あくと知つて東洞あくを支えと結びて親友あく東洞の名あれあく才子顯れたりそハ東洞の考す考叢也あくとぞゆえ一寛延に年半五十歳にて教義方萬微方極を擇くち古醫北起則を建くも東洞の人とあく剣強篤実不く容負すこゝ草絶威風凜として重慶僧毛の如く服えんを射すを仰あく世人あるひハ信ドあるひハ疑ふわれあれどもさうも言ふせず、晚季中康侯禄五百石をも相あらざりとく國縛くせば安永二年七十二歳のうて没す三子あ

主長き名ハ獄字ハ修次次を名ハ唐字ハ子直次と名を
辰字ハ子良とす

柏泉屋甚助

柏泉屋甚助一考を申とソア江戸三十間堀子住
材木をりて産業として商事の需要ありひたすら
名声のすみんとぞ好むれ癖ありうるゝが因春端内門
子ぐでやがく書を刊行しとくが多キ不朽不傳
つんとく春端子なるを圖書令義解ハ流布の多文あれハ
抜刻ノノ曲典を補充といもれづゝ一々やうそいきうち標
注を加へ卷尾子名を記して上本セリヤカニ易の經傳釋文
を抜刻し松室開脩殿の跋文を譲りこれより標注を加

一書肆子あつて阿木ねく世小流布セリアキハ孝子
龜井戸天浦宮社附小走歌乃會席を造立してち達美
つすり額をゆきと江戸湯町名跡志子尽く
て偽医の名氣ハリテ子きあくす人能師やよび難技
の技まであるあやかまえりちをとをやめもとくぶ六幫
用傳燈のをよぐやまく小走多くとくづく名のひうき
愛さんととすとく自著の書江戸大雙紙太申板
説がありトモたまくせす存セリね度觀海集子寫ル
申の一絶ア

殉渴知名三十春厭看花柳、惹紅塵、未嘗忘清淨深
根路也、掌成都賣卜人

墳墓ハ浦岬西端寺子屋と當る

(一)

美成^{ミツル}左申力とより文學才^{カタチ}とうへぐ文雅
子虛名^{キムイナ}を求むて之シどもせしハ芳^{ヒカル}を子載^{シテ}
侍^{マサニ}んとの難^{ハラシ}きをあくべせめてハ奥^{アハシ}と万世^{ミタセ}
送^{ハシム}さんと北風^{ハリ}とすや左申の名^{メイ}を弘^{ヒロ}みき鐘^{カニ}
小左申^{ヒツジン}深^{ハラシ}とひそを仰^{ハラシ}り申^{スル}て都^{シテ}とく角^{カツ}ふ
吉系^{ヨシヨリ}の春女^{ヒナ}巴脣^{ヒナ}の豐里^{ヒラシ}とひそを着^{ハラシ}せぬ縫締^{ハラシ}
カサハソの縫^{ハラシ}を着^{ハラシ}てまゆの姿^{ハラシ}をあぐらせゆく
裁場^{カミ}中村傳^{ミツル}かず^{ハラシ}グ衣^{ヒハラシ}裳^{ヒハラシ}子^{ハラシ}あくべて
左角^{カツ}際^{ハラシ}あくべ世^{ハラシ}弘^{ヒカル}かくとせひ
て吳^{ヒガヤ}波原^{ハラシ}の足^{ハラシ}子^{ハラシ}行^{ハラシ}左角^{カツ}際^{ハラシ}あくべ^{ハラシ}君^{ハラシ}よ

その事あつて代左申津^{ヒツジン}と左石^{ヒツシ}とあくべ^{ハラシ}いあ^{ハラシ}形^{ハラシ}
ごとく^{ハラシ}お申^{スル}大田太田^{ヒツジン}くわせ^{ハラシ}如^{ハラシ}き紋^{ハラシ}あくべ
ノ^{ハラシ}すそ^ハ世^{ハラシ}傳^{ミツル}五郎^{ハラシ}と^{ハラシ}かのと^{ハラシ}を差^{ハラシ}はく
やあ^{ハラシ}浦岬^{ヒツジン}に接^{ハラシ}樹^{ハラシ}あす^{ハラシ}枝^{ハラシ}左申^{スル}
と名^{ハラシ}づ^{ハラシ}井通應^{ヒツジン}の文^{ハラシ}を讀^{ハラシ}ひ碑^{ハラシ}を建^{ハラシ}てう^{ハラシ}きこう
左申^{スル}と^{ハラシ}津^{ハラシ}と^{ハラシ}を組^{ハラシ}せ裁場^{カミ}招^{ハラシ}言^{ヒハラシ}子^{ハラシ}う^{ハラシ}を
又^{ハラシ}左申^{スル}あくべ^{ハラシ}行^{ハラシ}と^{ハラシ}人食^{ハラシ}子^{ハラシ}ね^{ハラシ}と^{ハラシ}を^{ハラシ}て^{ハラシ}左申^{スル}
チ^{ハラシ}あくべ^{ハラシ}好^{ハラシ}と^{ハラシ}唄^{ハラシ}を^{ハラシ}き^{ハラシ}と^{ハラシ}あくべ^{ハラシ}と^{ハラシ}
二^{ハラシ}の類^{ハラシ}は車^{ハラシ}路^{ハラシ}と^{ハラシ}まく^{ハラシ}二^{ハラシ}れ^{ハラシ}う^{ハラシ}為^{ハラシ}す修^{ハラシ}字^{ハラシ}ハ家^{ハラシ}產^{ハラシ}
を^{ハラシ}破^{ハラシ}れ^{ハラシ}と^{ハラシ}も^{ハラシ}と^{ハラシ}あ^{ハラシ}て^{ハラシ}話^{ハラシ}柄^{ハラシ}子^{ハラシ}附^{ハラシ}す^{ハラシ}の^{ハラシ}

拔^{ハラシ}坂^{ハラシ}ト^{ハラシ}高^{ハラシ}

本
鑑

坂坂上高名ハ如春様子賣高と称すその先申れ御用事
の医者ト高医療子國手なるをりて被医とあまう江戸
涉州す住みテ久く宋人馬仲虎^{マシキ}が編年五尺圖を授刻
て世小糸ふ藏書甚くあり淺草文庫の印記あり今後
世子散在セテうちその文庫れ地ハ淺草ちのうちある萬士權院の
前すありその地子稻荷の小祠ありそぞら土坂ト高橋高と
ア文庫の田地即ち北石川^{タマガタ}元の詩あり微^{ヒタチ}とす
浅草川西一小塗新年風暖見春蔬向汀^{アヒル}元味^{トリ}弄^{アヒル}
販更讀時珍綱目書

美成^{ミツル}ト高の本蹟^{ドサキ}久々^{クク}ハ医勝^{イセイ}すアマ

名家畧傳卷之一

名家畧傳

五
四
七

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 12

281
2

本銚



名家畧傳卷之二

江戸 山嶋美成編
同 千賀春城訂

薰葭堂

薰葭堂名ハ孔恭字ハ世肅木村民清華塲の子あり清華
比薰葭とのふ故事あるをみて薰葭弟と号せり世を舉て
薰葭堂を立て號すよしと號せり世を舉て人薰葭堂と號ざ
るより第一の名をあつて後世より忠誠且博學として多
く称えられ、その名をあつて世人小文を結ぶものあへこ
れありそれ悔志官復も世人小文を結ぶものあへこ



とすわ連の物産を究め山海の名種薬夷れ奇ふと集めて
樂と一傍古書畫を愛玩し自も亦よく山水を寫すと嘗て
他邦の客ありと訪ひ來りとあれば晤言談論終りと
ども倦むとすと之の如よりく文學を論ずるゝ武技
を教するありあらひへ書き向ひ畫を向ひあらへ產物およ
び故車子車子雅小便子名毛丸つるぎとろぎ(さうめのあ
ひ)暇日あるとか一四方の様容姿華子遊ぶゆの雅俗と取
りあそびすと薰蕎麦子尋ね来りざるあれあ(まつまつ)
日をゆて夜を寝き夜をとく日小總ぐ書籍は被覆六
年あるとあ(まつまつ)薰蕎麥子尋ね来りざるあれあ(まつまつ)
華の地古より薰蕎麥小名すきゆの輩出一函内子少ゆる

カのあ(まつまつ)どもその談情移通薰蕎麥子の如きあれあると
サ(まつまつ)世略人情子載するふと(まつまつ)各二車子運す
のと薰蕎麥子の如(まつまつ)古を考へ今を計り系車子通院す
れ古(まつまつ)りつす希(まつまつ)め(まつまつ)車子長崎子通院せ(まつまつ)次
後(まつまつ)河(まつまつ)に(まつまつ)帰(まつまつ)て(まつまつ)車子通院(まつまつ)唐(まつまつ)山の風
海(まつまつ)に(まつまつ)船(まつまつ)アリ(まつまつ)人(まつまつ)あると唐(まつまつ)山の風
也(まつまつ)あ(まつまつ)小(まつまつ)移(まつまつ)薰(まつまつ)蕎(まつまつ)麥(まつまつ)を(まつまつ)二人(まつまつ)あ(まつまつ)れ(まつまつ)知(まつまつ)
多(まつまつ)談(まつまつ)を(まつまつ)費(まつまつ)す不(まつまつ)足(まつまつ)と(まつまつ)思(まつまつ)う(まつまつ)き(まつまつ)移(まつまつ)海(まつまつ)に(まつまつ)唐(まつまつ)山の風
移(まつまつ)化(まつまつ)薰(まつまつ)蕎(まつまつ)麥(まつまつ)子(まつまつ)住(まつまつ)す(まつまつ)あ(まつまつ)れ(まつまつ)ど(まつまつ)薰(まつまつ)蕎(まつまつ)麥(まつまつ)子(まつまつ)の(まつまつ)生(まつまつ)地(まつまつ)を(まつまつ)
擊(まつまつ)せ(まつまつ)て(まつまつ)國(まつまつ)子(まつまつ)經(まつまつ)歷(まつまつ)す(まつまつ)と(まつまつ)あ(まつまつ)れ(まつまつ)一(まつまつ)移(まつまつ)考(まつまつ)墮(まつまつ)察(まつまつ)三(まつまつ)の(まつまつ)風(まつまつ)土(まつまつ)勢(まつまつ)
移(まつまつ)を(まつまつ)詳(まつまつ)す(まつまつ)知(まつまつ)る(まつまつ)の(まつまつ)六(まつまつ)千(まつまつ)卷(まつまつ)が(まつまつ)あ(まつまつ)る(まつまつ)當(まつまつ)す(まつまつ)一(まつまつ)卷(まつまつ)す(まつまつ)

方今唐山橋の瓦彌好車（わいがうしゃ）をもとあるがとある人々にて嘗矣
そよぐに浮處（うきよ）ありて伊勢子泰（いせのこやす）とふれど儒居（じゆゐ）セシトとあり、薑
薑堂（あわやうどう）又皇朝（こうとう）の學子（がくし）也（ も）、地紀名勝山川鶴區（ちぎめいせうさんせんかくく）
空園（くうえん）よりこれを藏弃（くわき）すかくてあり至る。土地もみて
並ねるもの如く、いまさきの山水も已不見（さうけん）とある。や
江戸東巖山の麓（あやし）下井上其流（みのうへいじゆう）とく人ありてその寄食甚（よろざい）
奇（き）ありてされどもあまき人多々（多く）、薑薑堂（あわやうどう）をもとぞれ
人（ひと）とあまきゆきくその隣人（となりひと）たよりをもとぞて其流（あわせゆう）が肖像（じぞうが）と
ゆふとぞおふ其流（あわせゆう）これでゆき方（かた）より自畫（じが）あるをも
てヨゴサ肖像（あわせゆう）をあらがしめ、賤俗（せんぞく）とつゝやすて江戸の革工風
池（いけ）のあら、這華子様（なまこさま）、一う薑薑堂（あわやうどう）を訪ひ（たず）ひぞ

種（たね）せみられその中れ慰（いさむ）りよとく一帳（いちばう）を出（だ）すりゆきゆ
のと用（もち）き又ふ江戸の革工の家号（いえごう）をもとて名紙（めいし）をふ
かれ城一枚（じょうまい）せ送（おもて）あく集（あつ）りありてとぞこころのとぞりそ
その好車の勝（かつ）れも、其像（じぞう）すゞ、薑薑堂（あわやうどう）の己（おの）を知（し）る者を
ハ多端（たばん）迂痴（よち）ありて笑ひ已（おの）がお藏（くわら）をりて丁寧（ていねい）款率（くわんりつ）と
して妻（め）アリや一妻三妻（さんめい）ありう女子一人（ひとり）三（さん）が、體和
志（しそう）よく車へ雍熙（おうぎ）の輦（のり）を失（失）ひとつう、薑薑堂（あわやうどう）の先祖
ハ後裔（こうい）又三房（さんぼう）基次（きじ）とソイ基次（きじ）のうち酒内（さかうち）に明（あは）ち乃
殺（さつ）不義死（ふぎ死）、その裔延助（よしまさ）芳昌（よしかず）の子吉右衛（よしやゑ）重周（じゆう
の浪華（なまこ）子あり、木村重直（きむら じゆぢつ）が娘（むすめ）と嫁（よづけ）、薑薑堂（あわやうどう）ハ重
周（じゆう）の子なり、天文元年十二月二十六日（1532年12月26日）生（うぶ）、享和二年正月

二十五日享年六十七歲中風而沒于

三

偏
元
書

偏年為名、真孩字ハ伊藏偏年為ハその号也。貞妙府中
の人通称五十嵐家也。と云々故ありて偏田氏を冒す文
ハ井田氏は吉星政の弟孫事々々家を継ぎ母の五十嵐
を稱してくて父母系やうやく母ハ江戸子あり、草席子住む

と年あり偏至爲の念あり性温雅にて善と樂る
静を好之非傷佛也教その蘊奥を窺ひ究めざまとす
かかし佛を奉じて佛子侯也神子事アリ承不泥もす
之信ド日衣食もさること無く四年半を重ねアリ中年以來
私子先代舊事本紀子涉り心をひきぬかずその業が小
志一著すをう奉紀纂三十三卷諸神祐產記二十一卷
極傳羅十八卷空華集十七卷抄う灌傳深極の書手至
多くハ總計百三十餘卷手稿アリトソアレの撰述よ
りてその志一又う傳アリ延喜三年丙寅の秋東歟太玉ニモ
さうす仰アリモ一稿也四天王寺は贈するをう北神率
聖法を偏至爲手傳アリテノラム衣を賜アリテ襍居錦